

かたよらず易^{かわ}らない中庸の道を守ることをねがい、

中

ちゅう

庸

よう

を

庶

こい

幾

ねが

い、

中

庸

庶

幾

東●

冬

※幾と同字

微●

功があつても驕らず、自らを慎み戒めて生きたいものだ。

勞

ろう

謙

けん

して

謹

きん

勅

ちよく

にす。



※勞と同字

支

豪●



塩●

人の話を注意深く聞いて真意を知り、

音

おと

を

き

いて

理

り

を

察

さつ

し、



青

侵

顔や表情をよく視て感情の動きを知ることだ。

貌

かたち

を

鑑

かんが

みて

色

いろ

を

辯

べん

ず。

辯

※弁と同字

色

鑑

貌

※貌と同字

咸

善い道や考えを子孫に遺す、

厥

そ

の

嘉

か

ゆう

を

胎

のこ

し、

嘉

胎

麻

支

猷

厥

尤

●

ただそのために慎み深く勉める。



そ



し



しよく

を



つと

む。

※つつしむ。



※植と同字



支



支

自らの行いを省みて戒めることが大切だ、

躬

み

を

省

かえり

みる

譏

そし

りの

誡

しまし

め、



微

東

栄誉を得れば驕り高ぶるので、十分に身を慎むべきである。

寵

ちよう

増

ま

さば

抗

はば

むこと

極

きわ

まる。

抗

極

※極と同字

寵

増

高位に昇るほど人から妬まれて、恥辱を受けることが多くなる。

辱

じよく

に

殆

ちか

く

恥

はじ

に

近

ちか

きときは、

近

恥

※恥と同字

殆

辱

その時は好機を見て引退し、山林や湖沼に囲まれた閑静な所へ退きたいものだ。

林

りん

幸

こう

に

即

っ

かんことを

幸

ねが

え。

幸

※幸と同字

即

林

侵

幸

豪